5．随想　OBの著作二つを読んで

川本正之 OB は現在、日本機械土工協会・技術委員長である。私の手元には川本さんの著作、日本建設機械化協会発行（平成 17 年）「重機械による施工法の変遷」がある。建設機械施工の歴史では終戦直後、羽田飛行場拡張工事で米軍建設部隊による大型機械施工を見ての驚きと興奮、昭和 26 年着工電源開発丸山ダムから佐久間ダム、御母衣ダム、黒四、井川、畑薙各ダムの基礎掘削、骨材採取、仮排水路締切、仮排水路トンネル、高速道路、新幹線工事、宅地造成などの施工を詳しく記録されている。年代別にも施工法の特徴がまとめられている。建設機械メーカーの歴史は日立製作所ほか 5 社の歴史を調べられているのは貴重だ。懐かしく貴重な建設機械の写真、施工現場写真が豊富に載っている。この A4 判 76 ページは土木の重機施工に携わる、携わった人には手元に置きたくなる本である。まだ少し残っているそうで、川本さんに連絡されれば入手できる。

同氏は昭和 32 年電源開発入社、35 年日本国土開発に入社され、名神吹田インター工事から奥矢作用水発電所工事まで多くの工事をされ、平成 4 年以降は国土開発工業に勤務し 11 年に退職されている。

「丹那トンネルの話・川本正之著・2005/7 発行」も頂いた。鉄道省時代の資料など多くの資料を基に有名な難工事について施工技術を中心に読みやすくまとめられている。

あとがきにある、水力発電所水路トンネル工事で著者が体験した発破事故、その後の建設工事への熱い思いには感動した。

先日は、佐藤裕俊 OB から雑誌「建設機械」10 月号の記事コピーを戴いた。日本工業出版社から原稿依頼を受けて寄稿され、同氏は終戦直後から建設機械施工に従事されたことから、建設機械の変遷の章を戦前から戦後まで電力、道路、基礎、港湾など広範囲に多くの機械にわたっている。記述のうち、戦後の大部分は日本国土開発の歴史そのものでもあると感じた。

大規模土工工事が得意であったわが社の今の若い人に読んでもらいたい。

このお二人の著作活動に仕事に対する篤い思いを強く感じる。小生も「私のプロジェクト X」を書きたくなった。皆さんもどうですか。